

知的障害特別支援学級における 個に応じた授業の改善

—ICF関連図を用いた個別の指導計画の作成と活用を通して—

長期研修員 片野 裕美

主題設定の理由

— 全面実施から4年目を迎えた特別支援教育 —

現状

- 特別支援教育全体
 - ・児童生徒の障害の多様化・重度化
- ☆特別支援学級
 - ・様々な障害種、軽度から重度の児童生徒の混在
- ☆個別の指導計画
 - ・作成が大変 作成しても実際に使われていない

課題

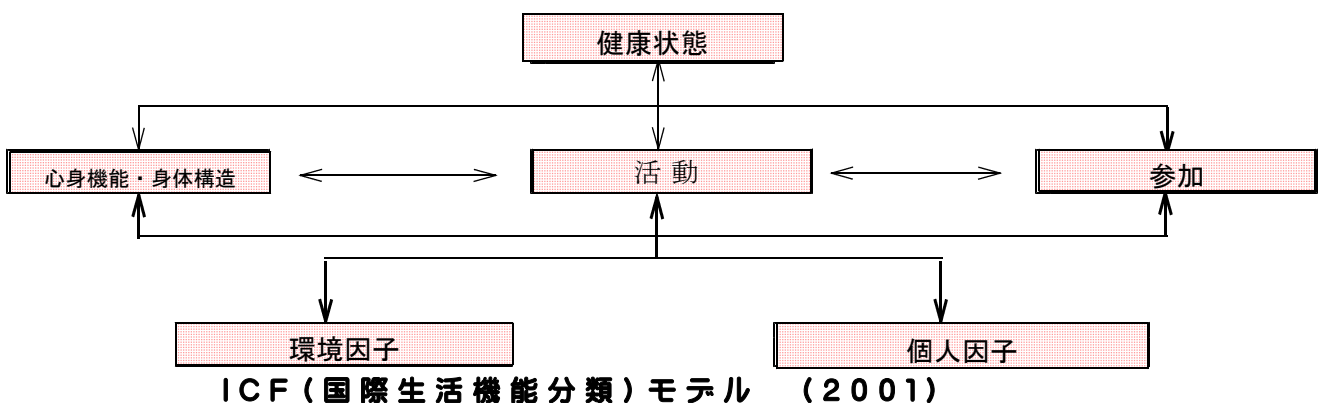
- ・教育的ニーズの的確な把握
- ・適切な指導・支援
- ・授業に生きる個別の指導計画



ICFの考え方をういて、児童生徒の「学習上又は生活上の困難」を把握し、目標や手立てを導き出すことで、個に応じた指導や支援の質を高めたい。

- 知的障害特別支援学級における授業の充実
- ICF関連図を用いた個別の指導計画の試行

* ICFは2001年にWHO総会において採択された新たな障害の構造・概念の枠組みです。人の生活機能を心身機能・身体構造、活動、参加の三つの次元でとらえ、それらと健康状態や環境因子、個人因子が互いに影響し合っていると考えるものです。



研究のねらい

知的障害特別支援学級の児童を対象として、ICF関連図を用いて、児童の生活全体を多面的にとらえ具体的な手だてを明確にした個別の指導計画の作成と授業におけるその活用は、個に応じた授業改善を図る上で有効であるかを明らかにする。

* 本研究では、ICFモデルを用いて各内容を記入した図を「ICF関連図」という。

研究の内容と方法

1 ICF 関連図を用いた個別の指導計画

- ①指導場面における抽出児の思いや願いから望ましい参加の状態を想定し、実態把握シートに児童生徒の様子を記入し、現状を把握する。
- ②実態把握シートを基に、実際の授業での目標設定や目標達成につながる活動・環境調整等による手立てを、目標・支援シートに記入し、授業に反映させる。
- ③「実態把握シート」及び「目標・支援シート」は、各単元計画時に作成し、蓄積していく。蓄積したシートを基に、新たな単元を立案・指導するようにする。

- ・ 授業に直接生かすことを目的に単元レベルで作成
- ・ ICFの構成要素を活用

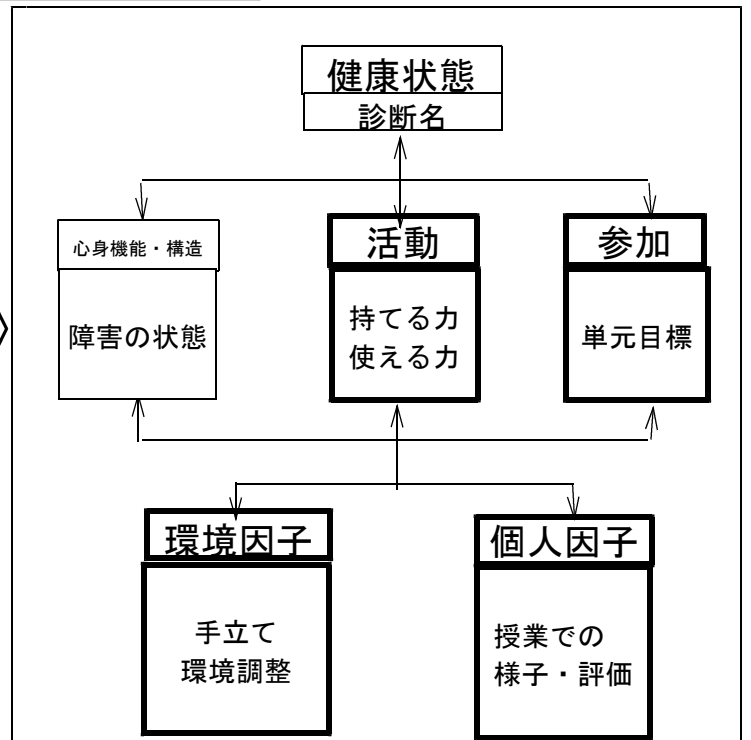
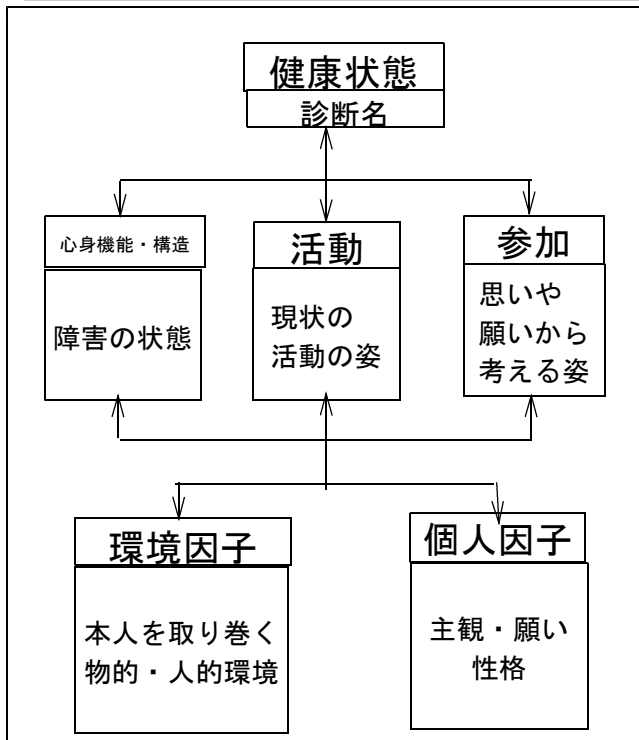


図1：【実態把握シート】

図2：【目標・支援シート】

* ICFモデルの構成要素を基にした【実態把握シート】【目標・支援シート】の各項目の内容は、授業づくりに生かせるよう上記のように位置付けた。

2 個に応じた授業の改善

授業後は、【目標・支援シート】の個人因子の欄を評価として活用し、児童生徒の変容から課題を環境因子の欄に結び付け本時の目標や支援方法を修正・具体化し授業の改善につなげていく。そして、より効果的な教育活動を充実させるためPDCAサイクルに基づいた授業改善を図っていく。

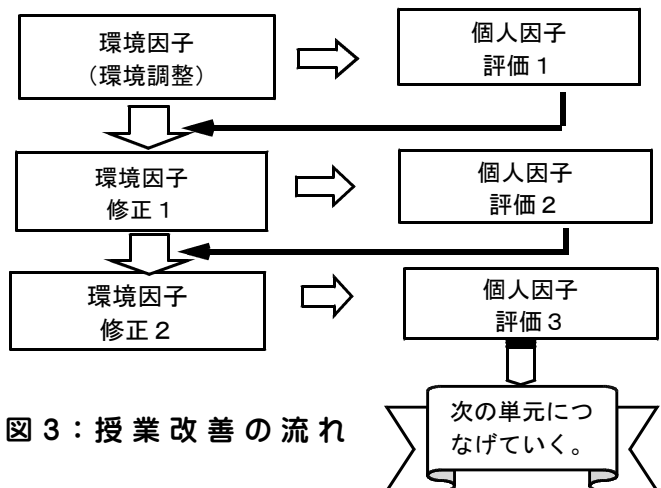
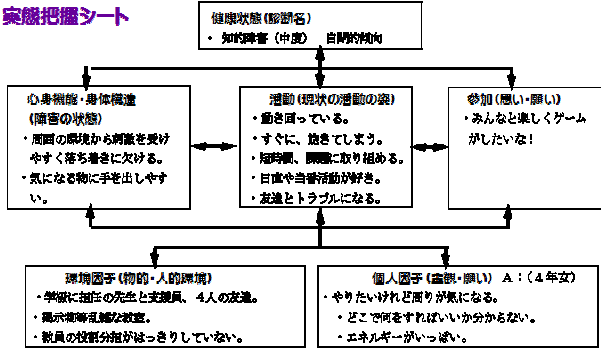


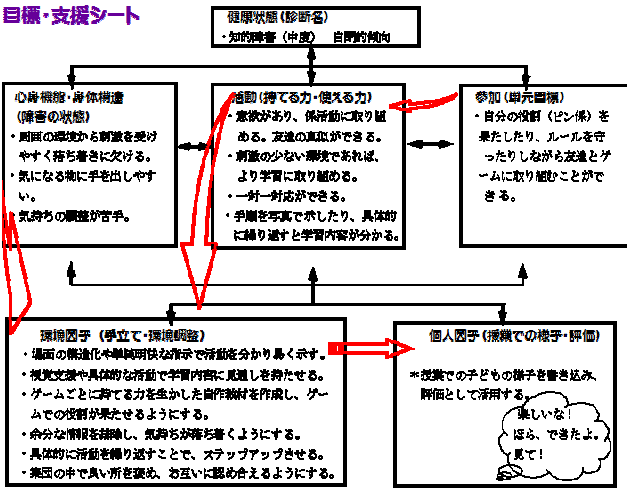
図3：授業改善の流れ

1【ICF関連図を用いた個別の指導計画】

実態把握シート



目標・支援シート



・最初にICF関連図を用いた「実態把握シート」を作成します。まず、「健康状態」と「心身機能・身体構造」から、次に「参加」・「活動」・「環境因子」・「個人因子」の順に記入しました。

・次に「目標・支援シート」を作成します。「参加」が、単元目標です。「活動」から持てる力や使える力を考え、成長・発達を促す手立てを環境因子に記入しました。

・個別の指導計画と単元の指導計画を相互に考慮しながら、授業作りを進めました。

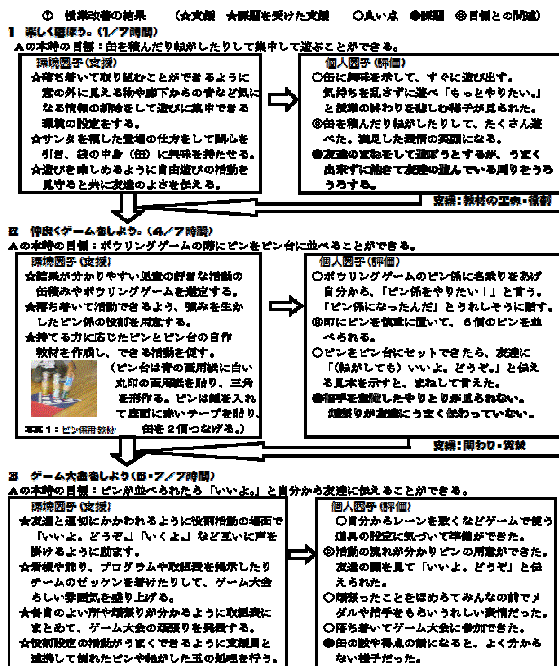


2【単元の指導計画】

主な学習活動	指導上の留意点
1 楽しく遊ぼう。(2時間) ①自由遊び [第1時]児童3名 ・ 缶を使って自由に遊んだり競ったりする。 ②ルールのある遊び [第2時]児童3名 ・ 友達と簡単なゲーム(缶積みやボウリング、箱入れ)をして遊ぶ。	・興味・関心を高めることができるように、サンタクロースの袋に「缶」を入れて提示をする。 ・缶での遊びに集中して取り組めるように、外からの情報をカーテンで遮ったり、余分な音をドアを閉めて入れないようにしたり、必要の無い提示物ははがしたりして環境を整える。 ・遊びを楽しめるように、個々の活動のよさを伝えたり、遊び方を紹介したりする。
2 仲良くゲームをしよう。(2時間) ①ルールのある遊び [第3時]児童5名 ・ 5人で自由遊びや係決め、競技の練習をする。 ②大会の計画 [第4時]児童5名 ・ ゲーム大会のめあてを知り、役割の練習や道具制作、ゲームの復習をする。	・活動に見通しをもち、分かって取り組めるように、説明を聞くときの「座るよマット」や位置を示す「スタートマット」、缶を転がす「レーン」や「トンネル」などを用意する。 ・「できた」という実感をもてるよう、持てる力やよさ・強みを生かした教材を制作したり、役割活動を設定したりする。 ・共有してゲームを楽しめるように単純な分かりやすいルールにする。
3 ゲーム大会をしよう。(3時間) ①準備と練習 [第5時]児童3名 ・ 看板とプログラムの制作をする。 ・ 役割の確認をする。 (プログラム係、缶係、ピン係、箱係、係長、時計係) ・ エニホームと参加切符を受け取る。 ②ゲーム大会 [第6・7時]児童5名 ・ ゲーム大会の準備をする。 ・ ゲーム大会を実施する。 ・ 片付けを協力して行う。	・期待感や参加意欲を高められよう、大会へ向けた「看板」と「プログラム」を制作したり「ゼッケン」や「参加切符」などを用意したりする。 ・それぞれの役割活動を通して持てる力やよさ・個々の強みを集団の中で発揮し、お互いが触れ合って適切なかわりあがもてるよう、見本を示したり、タイミング良く声を掛けたりする。 ・みんなで楽しいゲーム大会が開けた満足感と個人のよさや頑張りが集団に伝わるよう、よさを認め合う賞賛の場を設定する。

* 時間によって学級児童数が異なるのは、協力学級での学習が個々により行われるため。

3【授業改善の結果】



授業改善

・第1時では、飽きて友達の周りをうろろしてしまう様子を受け、次時では教材を工夫して役割を持たせるという支援につなげました。

・第4時では、相手を意識したやりとりがみられなかったり、頑張りの様子が友達に伝わってなかったりしたので、適切なかわりあがりの方の見本を示したり賞賛の場を設けたりするという支援につなげました。



4 【授業実践の結果】



抽出児の様子

以前は、気が散りやすく指示に従わないで席を離れ出歩いたり、友達とけんかなどのトラブルがあったりする姿が多く見られましたが・・・

- ・気になる情報を排除すると、安心して遊びに集中でき満足した表情が見られた。
- ・自由遊びで「缶」に興味を示し、自分から遊び始める。楽しそうに遊ぶ姿が見られる。
- ・活動に見通しがもて、言われなくても準備や片付けをする自主的な活動が見られた。
- ・持てる力に応じた自作教材で役割を果たしながら友達に声を掛けて遊べるようになる。
- ・頑張ったことをほめると、うれしそうな表情が見られた。落ち着いてゲーム大会に参加できた。



興味・関心を引く提示



教材の工夫



構造化による活動



賞賛と自己肯定感

研究のまとめ

1 成果



障害による学習上又は生活上の困難を把握し個に応じた授業改善が図れました。

ICF関連図を用いた個別の指導計画の作成

- ①児童の姿を肯定的に受け止めることができ、多角的・総合的な見方ができた。
- ②「持てる力」の発掘と「使える力」の吟味ができ、適切な手だてを導くことができた。
- ③個別の指導計画は指導案の役割を兼ね備えることができ、計画の簡略化につながった。

個に応じた授業の改善（ICF関連図を用いた個別の指導計画の活用）

- ①個人因子をもとに環境因子で支援方法を修正し授業に生かしたことは、授業における児童の変化に対して、即時的できめ細かな対応が可能である。
- ②児童の「持てる力」や「使える力」を生かして活動設定や教材作成をしたことは、児童にのみ大きな負担を強いることなく、児童の直面する学びにくさ・生きにくさが軽減され、満足感や有用感を生み出した。

2 課題

- ①実態把握シートと目標・支援シートによる単元レベルの計画を引き継ぎ、積み上げていくことで個別の指導計画としての精度を高めていく。
- ②授業全体のねらい、学習集団の様子を踏まえた単元の指導計画があれば「実態把握シート、目標・支援シート」は、学習指導案としての機能を持たせていくことができる。今後実践を重ね、検証していく必要がある。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター
担当係：特別支援研究係 0270-26-9218（直通）

